

☆ご自由にお持ちください☆



# 放射線だより

2024年9月  
No. 14 (隔月発行)  
担当：馬場俊明

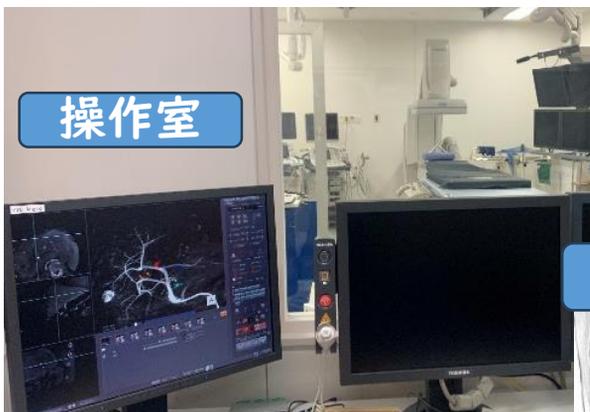
Wilhelm・Conrad・Röntgen  
ヴィルヘルム・コンラート・レントゲン  
1895年 X線発見

from Radiation House

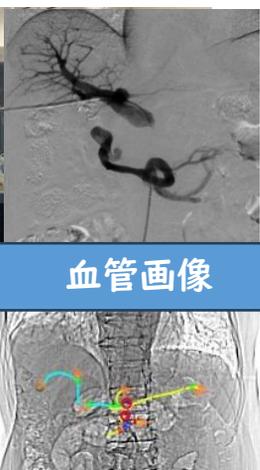
## IVR (インターベンショナルラジオロジー)とは??

日本語で画像下の治療です。当院の血管撮影室では、数ミリの管を手足の方から血管内に入れて癌の血管塞栓術や動脈出血の止血術が施行されている。また、急性胆嚢炎穿刺術は、お腹を切らずに最小限の傷で治療が行われています。

操作室



血管画像



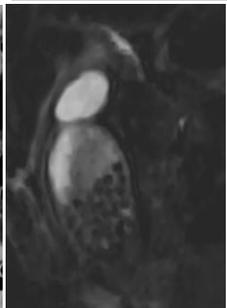
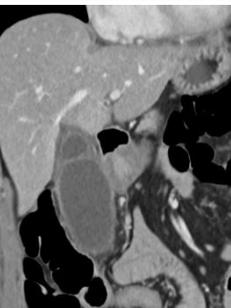
IVRプランニング

血管撮影室



CT画像では  
胆石写らない

MRI画像で  
胆石確認



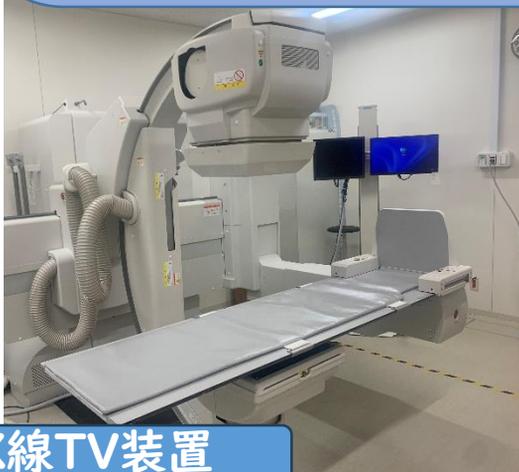
急性胆嚢炎穿刺術

当院の血管撮影室では、CTの3D画像を作成処理し、MRI画像や様々な検査結果を活用して患者様に最善で安全な治療ができるように努めています。また放射線量管理も行われています。(文責 佐々木)

# X線TV撮影室

## 下部消化管バリウム検査(注腸)

近年、日本における大腸がん死亡率は増えている(下記胃がんとの比較)。先進国においても1番多いとされている。大腸がんが増えている中で内視鏡検査が行われているが、当施設では下部消化管バリウム検査(注腸)も可能である。この検査は下部から造影剤と空気を注入するが、痛みはあまり感じません。体位変換して大腸の全体画像をX線TV装置で撮影します。また、以前の装置に比べて広範囲かつ多方向撮影が可能であるため、撮影回数と体位変換が少なく済みます。特に便潜血陽性時に、この検査が必要で画像は客観視することができ、患者さまが納得のいく検査や治療を勧められます。下部消化管(注腸)バリウム認定技師も数名いますので、安心して検査が受けられます。(文責 佐々木)



X線TV装置

罹患数と死亡数

### 大腸がん



下部消化管バリウム検査(注腸)

罹患数と死亡数

### 胃がん

